

三里塚を反戦・反核の砦として闘おう

集会より
6.5での発言
その2

日刊
労働千葉

82.6.12

No. 1068

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)二九三五〜六(公衆)留三(22)七二〇七

「日刊労働千葉」一〇六六号(六月十日)にひきつづいて、「六・五労働者集会」における各労組・団体からの連帯のあいさつ、メッセージを御紹介します。

全国に拡大する本山支援の闘い
少数でも断固闘えば、勝利できる

中野 七郎氏

(全金本山労組書記長)

全国金属から処分されて三年の間、会社に対する反撃の闘いを組織し昨年には、ついに社長を退陣に追い込んだ。

三十数名が断固として闘うならば、勝利できることを示した。一方全国金属は、五月八日、統一準備会に加入した。この全金傘下の「本山支部」は、わが本山労組をつぶそうとしている。しかし、われわれは、労働千葉と共に三里塚を闘い、反原発を

闘い抜いてきた。

夏季・年末物資販売の取組みを通して全国各地で反撃の闘いが前進している。国労の多くの分会でも、夏季物資販売の取組みを決定してくれた。

あらゆる反動をはねのけて闘い抜いている民間の闘いと国鉄の闘いを結合させて闘っていく。大阪でも本山支援の集会を開いたが、五十名が結集した。そして、本山現地闘争には、三十名が参加してくれた。こうして、大阪でもわれわれに連帯する人

三里塚を反戦・反核の砦として闘おう

北原 敏治氏

(三里塚芝山連合空港反対同盟事務局長)

労働千葉の集會に同盟は、欠かさず参加している。また、労働千葉は、現地集會にも全力で取組んでもらっている。

三・二八全国集會で反対同盟の「三里塚空港は軍事空港だ」との位置付けがますます明らかとなった。

日米合同軍事演習の中で、成田空港が緊急着陸の基地となっていることが明らかとなった。そして、空港が核戦争の攻撃目標とされる時代がくる。

この観点から五・二三反核東京行動に合流する方針を打ち出

し闘ってきた。

三里塚反対同盟の現実の闘いは、厳しい。代執行攻撃と現地への公団の懐柔策など「アメとムチ」の攻撃に対し、一切の話し合いを拒否して闘ってきた。

日共・民青・革マルは、五・二三反核集會から労働千葉や反対同盟を排除しようとしてきた。しかし、主催者である総評は、「沖縄・関西・北富士・三里塚をのぞいては、反戦・反核のストーリーがなくなってしまう」ということで、われわれは堂々と参加して闘ってきた。これは、三里塚を軸とした闘いの大きな成果である。

今後、全国の仲間と共に闘う。

交渉速報

一九八二年度夏季手当の支払いについて、以下の大綱について了解しました。

- ①支払範囲……六月二十三日現在職員。
- ②支払額……基準内賃金(婚姻加算を除く)の一九ヵ月分。
- ③支払日……一九八二年六月二十三日以降準備出来次第。
- ④その他の取扱い……従来と同様。

メッセージ

労働千葉の不屈の闘魂に期待する

清水 慎三氏

(労働運動評論家)

国鉄労働者は今労働組合員だけでなく、国労はもちろんその他の組合員もふくめて、財界エゴまる出しの臨調行革攻撃の矢面にたたかれています。マスコミをふくむ一切の反労働者勢力から集中砲火をあびせられています。この中から誰がどのような戦術で一点突破をこころみて、この包囲をうち破るか。そこに日本労働運動の起死回生の決定的なポイントがあります。

労働という職能別組合は職場で正直に労働者らしくたたかうことによつて永年その存在意義を示してきました。労働千葉が組織は小なりとはいえ、この伝統を正しく守つて不屈な闘魂をもち続けることができるならば、たたかいを忘れたいまの労働運動を戦闘的によりみえらせるための橋頭堡になることはまちがいありません。

組合員各位の奮闘を期待します。